

# 鳥居龍蔵とその時代



令和2年度  
徳島県シルバー大学校  
Web講座

徳島県立鳥居龍蔵記念博物館  
主事 小倉 和也

## 鳥居龍蔵とは？



鳥居の肖像

- 150年前に徳島で生まれる
- 明治・大正・昭和に活躍
- 郷土の偉人と言われる
- 考古学・人類学に関する調査や研究を行う

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・  
具体的な研究活動はあまり知られていない

鳥居の生涯や業績は現代に生きる私たちに  
多くのことを問いかける



原稿執筆中の鳥居

本日の授業

内容

鳥居龍蔵の生涯と業績

## 鳥居の研究活動の特徴

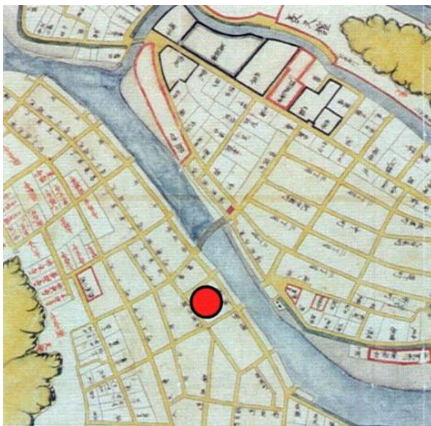
- ①独学で始めた考古学・人類学の研究
- ②アジア中を駆け回った並外れた行動力
- ③家族全員で行ったフィールドワーク

# ①独学で始めた考古学・人類学の研究

## ①独学で始めた考古学・人類学の研究

○1870（明治3）年

現在の東船場町1丁目で生まれる



明治初期の徳島城下町絵図  
鳥居の生家跡の位置を●で示している。  
（徳島県立博物館蔵）



## ①独学で始めた考古学・人類学の研究

- 裕福な家庭で育ち、何不自由のない生活を送る
- 人形芝居、浮世絵、歌舞伎などを愛好

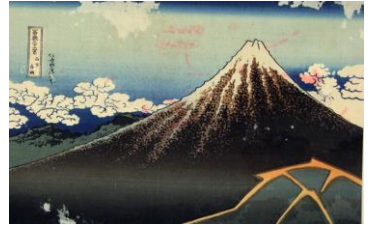
他には



11歳頃の鳥居



軍記物語



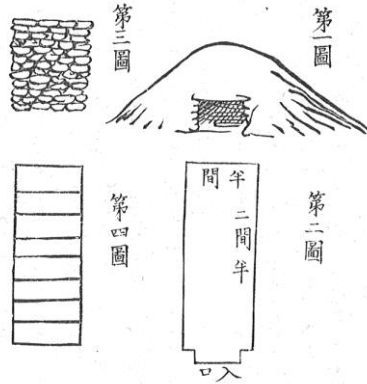
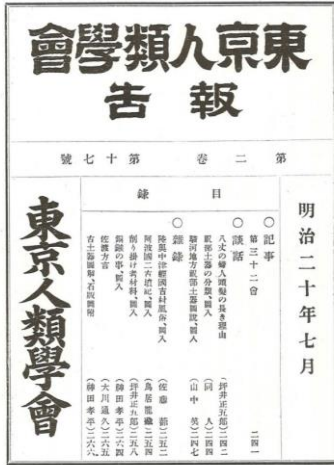
錦絵

## ①独学で始めた考古学・人類学の研究

- 小学校に入学（現在の新町小学校）
- しかし、学校の活動になじめず通わなくなる
- 新しい学問である考古学・人類学に興味を持つ
  - 16歳の時に発足して間もない東京人類学会に入会
  - 探究の道を歩むように
- 独学で研究を進める
- 積極的に徳島県内の遺跡などのフィールドワークを行う
  - 多くの記録を残す

# ①独学で始めた考古学・人類学の研究

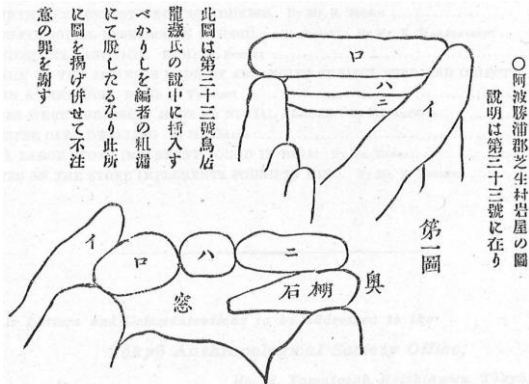
## ○調査の成果を全国的な学術雑誌に投稿



勢見山古墳（徳島市）のスケッチ  
（『東京人類学会報告』第2巻第17号  
1887より）

# ①独学で始めた考古学・人類学の研究

## ○調査の成果を全国的な学術雑誌に投稿



○阿波野浦郡芝生村岩屋の圖  
説明は第二十三號に在り



現在の岩屋

芝生村（小松島市）の岩屋スケッチ  
（『東京人類学会雑誌』第4巻第35号 1889より）

①独学で始めた考古学・人類学の研究

○調査の成果を全国的な学術雑誌に投稿

→次第に注目されるようになる



坪井正五郎（1863～1913）  
人類学の第一人者で鳥居に影響を与えた。



坪井正五郎（右端）と鳥居（右から2人目）  
（徳島市の錦竜水前）

②アジア中を駆け回った並外れた行動力

## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力

○1890年（明治23年）<20歳>

考古学・人類学の道を志して上京

→東京大学で働きながら研究を本格的に始める

○研究対象は広がり、数多くの海外の調査を行う

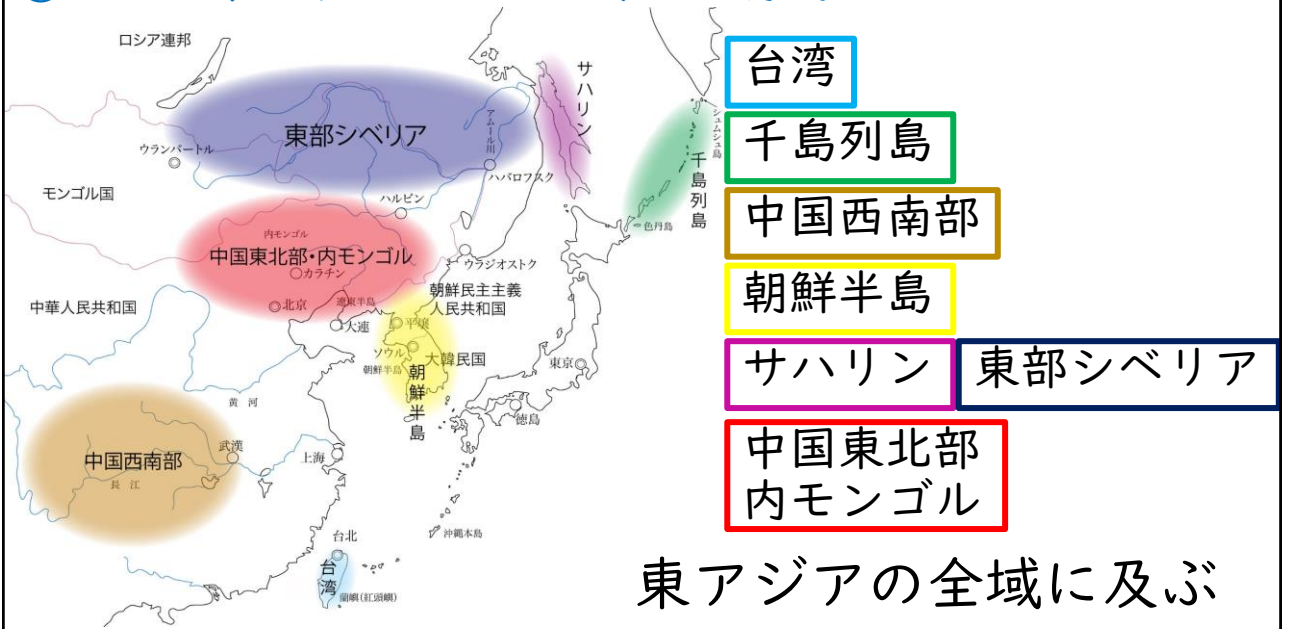
→すべて現地に長期間入って調査

→最新機器であったカメラを使う

（現地の人々の暮らしや遺跡などを撮影）

→調査地域に関する著書や論文を数多く執筆

## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力



鳥居が海外調査を行った地域

## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 遼東半島調査

- 初めての海外調査
- 1895（明治28）年
- 東京人類学会より派遣
- せきぼくじょう析木城でドルメンを発見  
ドルメン…支石墓



遼東半島調査時のフィールドノートに描かれたドルメン

## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 遼東半島調査



遼東半島調査時のフィールドノートに描かれたドルメン

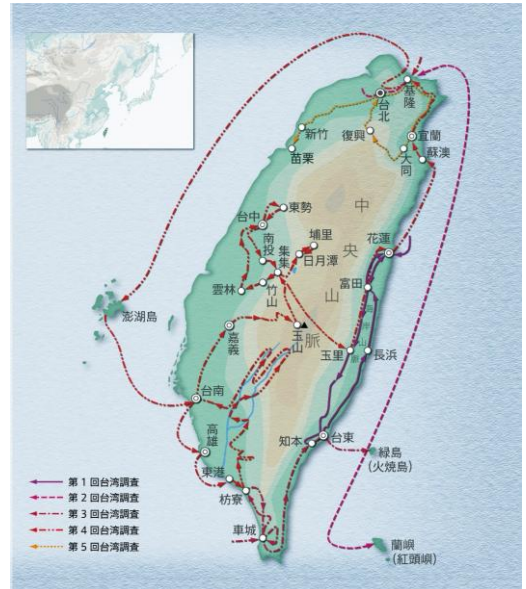


遼東半島のドルメン



## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 台湾調査

- 台湾…清朝より割譲される  
→東京大学から派遣
- 5回の調査を行った
  - 第1回 1896（明治29）年
  - 第2回 1897（明治30）年
  - 第3回 1898（明治31）年
  - 第4回 1900（明治33）年
  - 第5回 1910（明治43）年



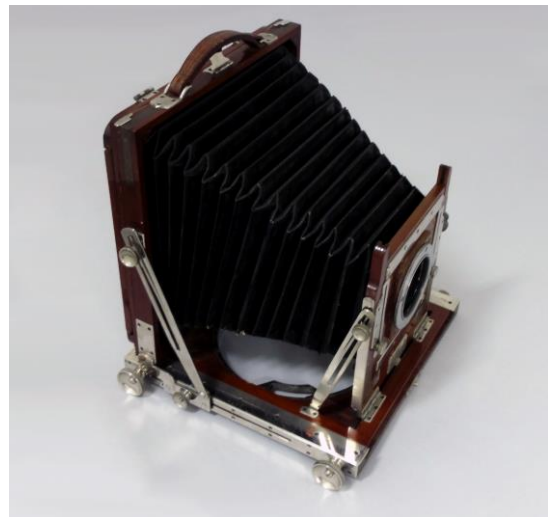
## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 台湾調査

- カメラを初利用（第1回調査）  
（ガラス乾板を用いる）

※ガラス甲板

ガラスに薬剤を添付したもの

- ・フィルムが普及する以前（明治から昭和初期にかけて）、さかんに使われた
- ・ガラスの劣化・破損、乳剤の劣化など注意すべきことが多い



カメラ  
龍蔵が使用したものと同一仕組みのもの  
（徳島県立博物館蔵）

## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 台湾調査



機織りをするタイヤル族の女性



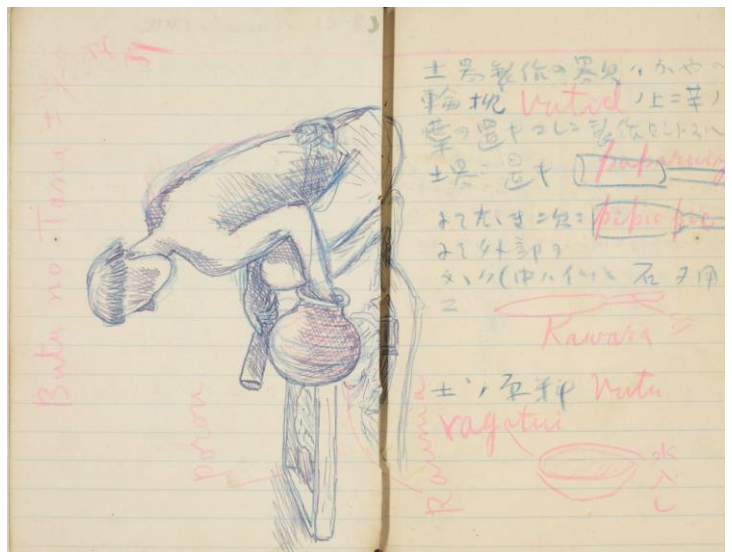
タイヤル族の酒宴



蘭嶼の海岸に並ぶ多数の船（タタラ）

## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 台湾調査

○ほぼ全域を調査  
→原住民族のすべての  
部族を調査、記録



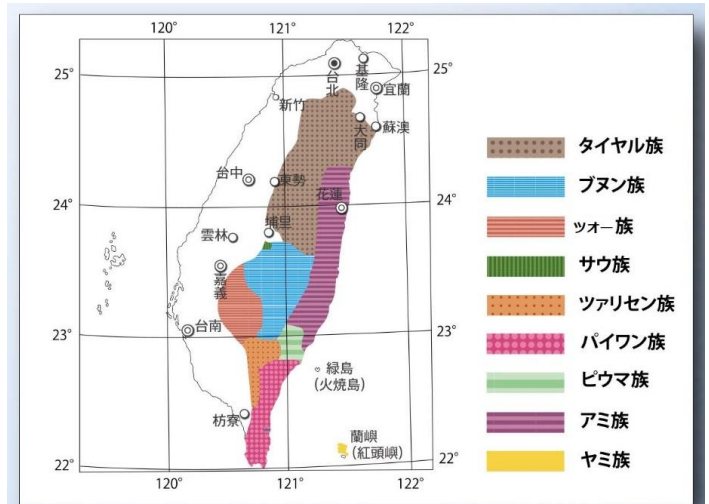
鳥居のフィールドノート  
1897年の第2回台湾調査時のもので、土器製作の  
様子が記録されている。鳥居が調査した頃の状況を  
知ることができる貴重な資料。

## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力

## 台湾調査

○原住民族を習俗、言語、伝承、風俗習慣などの面から9つの部族に分類

→中国西南部との関係性に注目



「人類学研究・台湾の原住民(一)」(鳥居龍蔵, 1910)掲載図を改変

## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力

## 中国西南部調査

○1902 (明治35) 年

○台湾調査をきっかけに  
中国西南部に興味を持つ  
→大学へ派遣を申し出る  
(日本人初の中国西南部の調査)

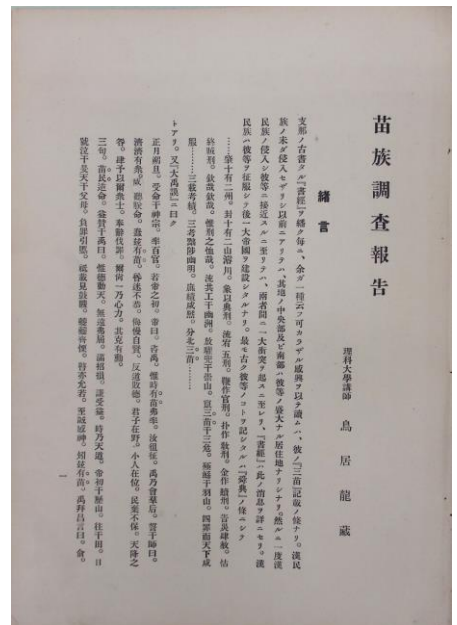


## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 中国西南部調査

- 湖南省を經由し  
貴州省・雲南省  
四川省を調査
- 危険を避けるため一時、  
中国の役人姿に

## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 中国西南部調査

- 長江をさかのぼって少数民族  
を調査（苗族、<sup>ミャオ</sup>ロロ族など）
- 帰国後、調査成果をまとめる  
→1907（明治40）年  
『苗族調査報告』を出版



## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 鳥居と西洋世界

### ○『苗族調査報告』出版の翌年

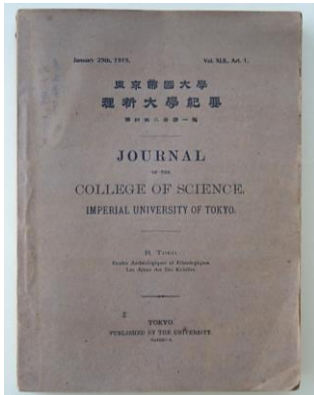
→国際雑誌に紹介されフランスの歴史学者に認められる

※報告書は、近代的な方法論を採用した西洋人以外の研究者による最初の報告書で優れたものだった

## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 鳥居と西洋世界

### ○鳥居は研究の成果を、世界を意識しながら発信

→特にフランス語での論文が多かった



東京帝国大学『理科大学紀要』に掲載された報告書  
 「人類学研究・台湾の先住民」の第一部（1910年）  
 「人類学研究・台湾の先住民」の第二部（1912年）  
 「考古学民族学研究・東蒙古の原始住民」（1914年）  
 「人類学研究・満州人」（1914年）  
 「考古学民族学研究・南満州の先史住民」（1915年）  
 「考古学民族学研究・千島アイヌ」（1919年）

など

『東京帝国大学理科大学紀要』第42冊第1編 1919

## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 鳥居と西洋世界

- フランスの様々な学術雑誌が鳥居の報告書を取り上げた
- 鳥居の研究業績は高い評価を受けた  
(近代人類学の理論や方法論に精通していたため)
- 鳥居の名はフランスの知的なエリートに次第に知られる

## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 鳥居と西洋世界

- 1920 (大正9) 年
- フランス学士院より「公衆教育勲章」を受賞  
(パルム・デ・ランストルクション・プブリック)  
※公衆教育勲章…教育功労賞 (最高位)
- 1921 (大正10) 年
- 国際連盟人類学院の正会員に選ばれ、日本代表に

## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 鳥居と西洋世界

- 一般大衆の新聞も鳥居の報告書や活動を報道
  - 「日本の人類学者  
リュウゾウ・トリイ」と知れ渡る
- フランスの学問の世界以外では・・・
  - アメリカやイギリスなどの研究者の関心を集めた  
独自の見解は高く評価された

## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 千島列島調査

- 1899（明治34）年
- 開拓事業団の依頼を受ける
- アイヌ…「人」を意味
  - ※地域によって生活様式に差
  - 北海道アイヌ
  - サハリンアイヌ
  - 千島アイヌ  
（人口が激減していた）



## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力

### 千島列島調査

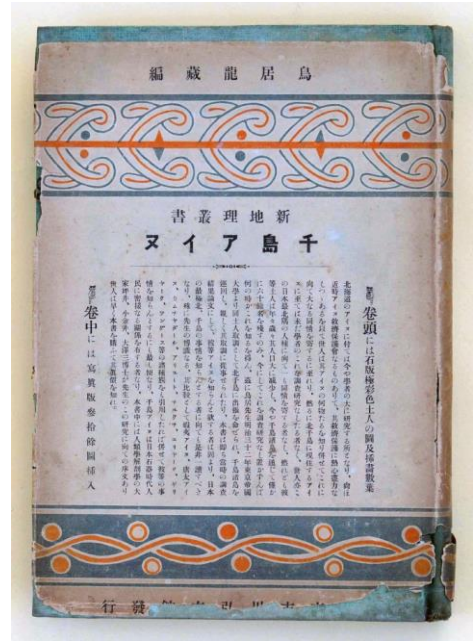
○千島アイヌの体質、言語、生活文化などを調査・記録

○調査成果をまとめる

→1903（明治36）年

『千島アイヌ』を出版

千島アイヌの貴重な資料に



## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力

### 朝鮮半島調査

○朝鮮総督府の囑託として

→朝鮮半島のほぼ全域を調査

○繰り返し調査を行った

1910（明治43）年から

1932（大正7）年までの間に





## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 朝鮮半島調査

○朝鮮半島にはないとされていた石器時代の遺跡を発見

○<sup>キムヘ</sup>金海貝塚などの考古学的調査  
→日本との関わりに関心を高めた



金海貝塚

○ドルメンを確認

## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 朝鮮半島調査

写真帳（副本）  
第1回調査の報告書と  
ともに総督府に提出された



→当時の朝鮮半島の景観や  
文化を知ることができる



## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 中国東北部・内モンゴル調査

- ・ 第1回 1895 (明治28) 年
- ・ 第2回 1905 (明治38) 年
- ・ 第3回 1907 (明治40) 年
- ・ 第4回 1909 (明治42) 年
- ・ 第5回 1912 (大正45) 年
- ・ 第6回 1912 (大正45) 年
- ・ 第7回 1919 (大正8) 年
- ・ 第8回 1927 (昭和2) 年
- ・ 第9回 1928 (昭和3) 年
- ・ 第10回 1930 (昭和5) 年
- ・ 第11回 1931 (昭和6) 年
- ・ 第12回 1932 (昭和7) 年
- ・ 第13回 1933 (昭和8) 年
- ・ 第14回 1935 (昭和10) 年

## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 中国東北部・内モンゴル調査

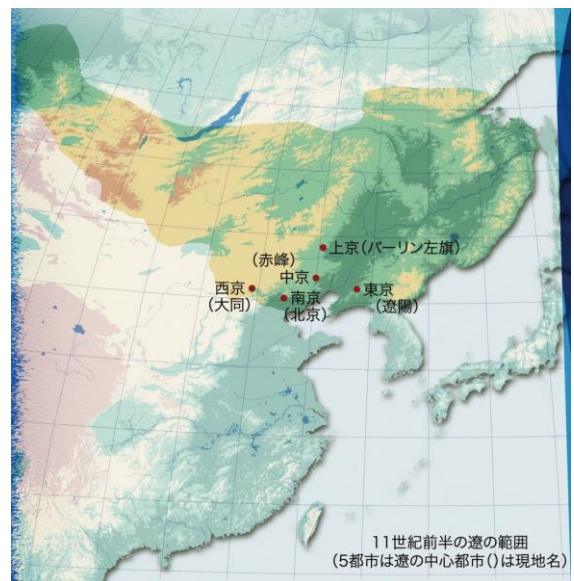
### ○遼文化の調査が中心

※遼 (916~1125)

モンゴル系契丹族が建てた征服王朝

### ○遼の調査・研究

後半生のライフワーク



## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 遼調査

内モンゴルの大草原を調査

### ○慶州城

遼の興宗時代に建設された城



慶州城の遠景（鳥居龍蔵『考古学上より見たる遼の文化図譜 第2冊』1936より）

## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 遼調査（慶州城）

### ○白塔

慶州城の北西に八角形の白塔  
慶陵を望むために建てられた



慶州城の白塔（鳥居龍蔵『考古学上より見たる遼の文化図譜 第2冊』1936より）

## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 遼調査（慶州城）



【内蒙古東南部航空撮影考古報告】（科学出版社,2002）より

空から見た慶州城跡

## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 遼調査

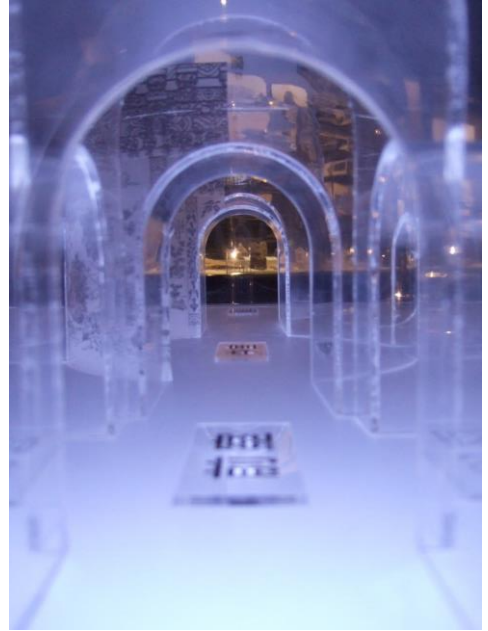
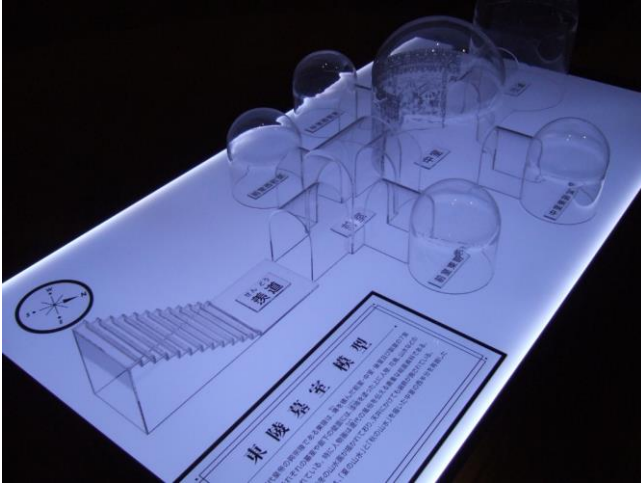
### ○慶陵…遼の第6代～第8代の皇帝陵



慶陵の全景（鳥居龍蔵『考古学上より見たる遼の文化 図譜 第3冊』1936より）

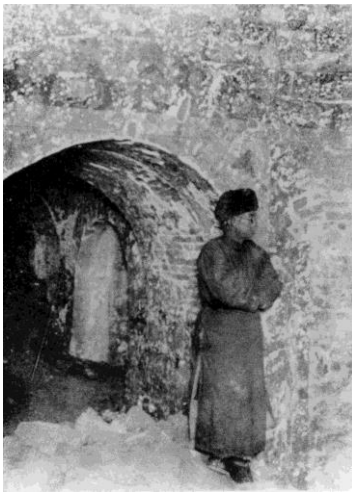
## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 遼調査（慶陵）

### ○東陵の内部



## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 遼調査（慶陵）

### ○東陵の内部



東陵内の鳥居



慶陵の東陵壁画（秋の場面）  
（鳥居龍蔵『考古学上より見たる遼の文化 図譜 第3冊』1936より）

## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 遼調査（慶陵）



東陵内部（復元展示）

## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 遼調査

○慶州城や慶陵で、遼三彩や緑釉瓦などを採集



遼三彩彫刻磚



緑釉鬼面文軒丸瓦

○鳥居の調査によって、遼文化の研究は大きく進展した

## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力

### 日本国内の調査

○全国各地を調査

徳島県

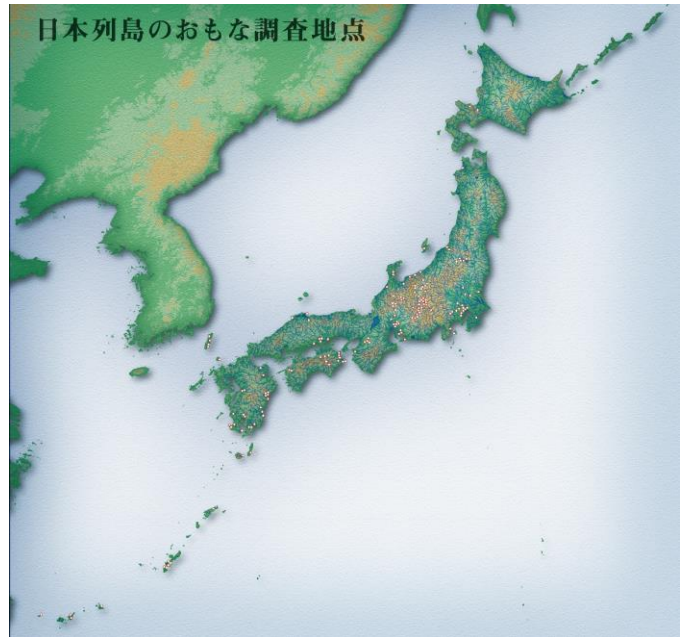
沖縄県（蠟管蓄音機使用）

宮崎県

長野県 など

○研究会設立にも参画

（武蔵野会、沖縄人類学会など）



## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力

### 徳島県内の調査

1922（大正11）年

城山貝塚の調査



徳島市 城山全景

## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 徳島県内の調査

- 1921（大正10）年  
文学博士の学位を授与<51歳>
- 1922（大正11）年  
徳島に帰郷し  
→県内の調査を行う

## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 徳島県内の調査

### 調査後の講演

- 鳥居は、  
「徳島の貝塚からは弥生土器しか出てこない  
→徳島の石器時代は、  
弥生時代以降である」





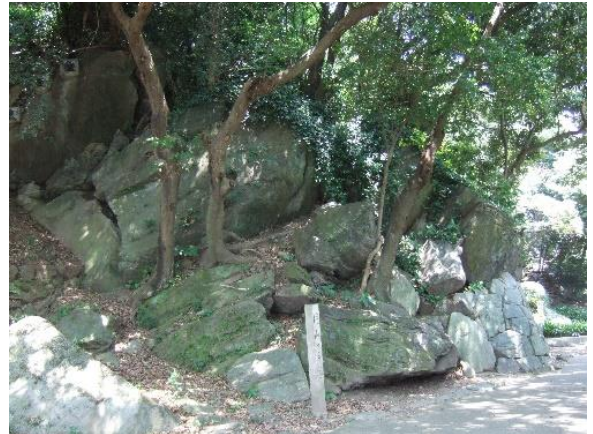
## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 城山貝塚の調査

### 城山一号貝塚



(にし指に東) 角の麓南山城

城山一号貝塚の全景  
右の写真は、現在の城山一号貝塚の全景



## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 城山貝塚の調査

### 城山一号貝塚（出土物）

- 貝類
- 弥生土器
- 縄文土器

（城山二号貝塚、城山三号貝塚からも出土）

→徳島の石器時代は、縄文時代以降である

（鳥居は自説を撤回）

## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 城山貝塚の調査

### 城山二号貝塚

○土器片や貝類と  
人骨が出土



城山二号貝塚人骨出土状況



城山二号貝塚発掘調査風景

## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 城山貝塚の調査

### 城山三号貝塚



城山三号貝塚前に立つ島居



城山三号貝塚の現況

## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 城山貝塚の調査

### 城山三号貝塚

○縄文土器と弥生土器が出土

→鳥居は

「縄文文化を持つ人々と  
弥生文化を持つ人々が  
同じ時期にいた」

と考える



城山三号貝塚の現況

## ②アジア中を駆け回った並外れた行動力 城山貝塚の調査

城山貝塚の調査をきっかけに

徳島における本格的な考古学調査が行われる

→城山貝塚の調査

徳島考古学にとって

転換点となった



城山貝塚発掘調査のメンバー 1922  
中央が鳥居

### ③家族全員で行ったフィールドワーク

### ③家族全員で行ったフィールドワーク

### 鳥居の家族



鳥居家の集合写真

龍蔵 (上段右端)

妻 きみ子 (下段右端)

長男 龍雄 (上段右から2人目)

長女 幸子 (下段右から4人目)

次女 緑子 (下段右から3人目)

次男 龍次郎 (下段右から2人目)

### ③家族全員で行ったフィールドワーク 官学からの離脱

1924年（大正13年）＜54歳＞

○東京大学を辞職

→自宅に鳥居人類学研究所を創設

龍蔵の研究を家族全員が支える独自の研究スタイル

### ③家族全員で行ったフィールドワーク 鳥居人類学研究所

龍蔵・・・所長・人類学研究

きみ子・・・渉外・人類学研究

幸子・・・現地調査（スケッチ）

緑子・・・現地調査（スケッチ）

龍次郎・・・現地調査（写真撮影）

### ③家族全員で行ったフィールドワーク

#### 妻 きみ子



結婚前のきみ子



龍蔵ときみ子

#### ○渉外担当

連絡調整

会計管理

通訳

など

### ③家族全員で行ったフィールドワーク

#### 妻 きみ子



中国・内モンゴルの慶州城の白塔前に立つ鳥居夫妻 1907

○龍蔵と中国東北部・  
内モンゴルの調査に長  
く携わる

○研究者としても実績  
を残す

→女性人類学者のパイ  
オニアでもあった

### ③家族全員で行ったフィールドワーク

#### 長女 幸子



竹屋神社（鹿児島県）でスケッチをする幸子と龍蔵 1930

- 現地調査ではスケッチを担当
- 文学的な素養あった
- フランスにも留学



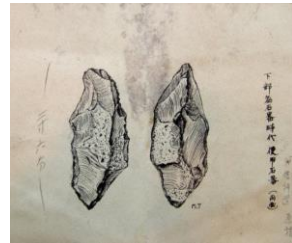
幸子のスケッチ

### ③家族全員で行ったフィールドワーク

#### 次女 緑子



- 現地調査ではスケッチを担当
  - 調査以外で絵を描くことも
  - 欧米での知人も多かった
- 各国の研究者との交流があった



緑子のスケッチ

慶陵東陵内部の壁画をスケッチする緑子 1933

### ③家族全員で行ったフィールドワーク

#### 次男 龍次郎



ペルーの空港で飛行機を待つ龍蔵と龍次郎 1937

- 現地調査では写真撮影を担当
- 龍蔵と連名で論文を発表することもあった



総持寺（東京都）で調査する龍蔵と龍次郎

### ③家族全員で行ったフィールドワーク

家族全員で行われたフィールドワークによって  
龍蔵の研究は大きな成果を挙げた



中国・内モンゴル 興安嶺山中  
ワールマンハにおける龍蔵ら一  
行の野営地 1933  
右から龍次郎、きみ子、緑子、龍蔵



## 鳥居龍蔵の残したもの

### 鳥居龍蔵の残したもの

#### 独自の学説

日本人の起源に関する自説を唱える

- 『有史以前乃日本』にまとめる  
(大正時代のベストセラー)
- その中で  
「固有日本人論」を展開



『有史以前乃日本』 (1918刊)

鳥居龍蔵の残したもの  
独自の学説「固有日本人論」

石器時代

- 日本列島最初の住民はアイヌ
  - ※鳥居が述べるアイヌは、  
現在のアイヌとは異なるもの
- 彼らは縄文土器を使用した

①



鳥居龍蔵の残したもの  
独自の学説「固有日本人論」

- 東北アジア系の人々が渡来
- 彼らは、弥生土器を使用
  - 鳥居は固有日本人と呼んだ
- さらに分布を広げる

②



## 鳥居龍蔵の残したもの 独自の学説「固有日本人論」

- インドシナ民族
- インドネジアン

と呼ばれた人々が渡来 ③



①～③の経過を経て、  
日本民族が形成される



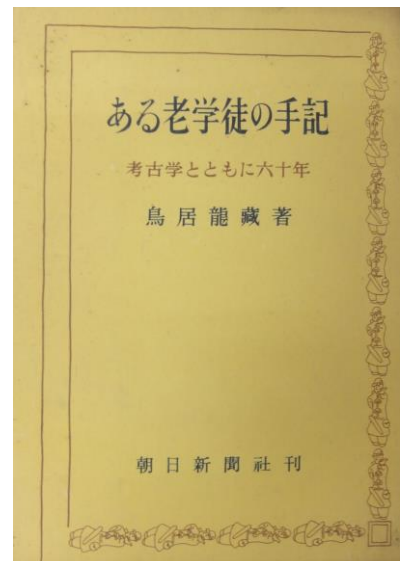
## 鳥居龍蔵の残したもの 最後の著書

1953年（昭和28）1月10日 出版

『ある老学徒の手記』

生い立ちや国内外での調査について記されている自叙伝

1953年（昭和28）1月14日 死去



『ある老学徒の手記』（1953刊）

## 鳥居龍蔵の残したもの

### 鳥居の言葉

私は学校卒業証書や肩書で生活しない。

私は、私自身を作り出したので、私一個人は私のみである。

私は、自身を作り出さんとこれまで日夜苦心したのである。

されば私は私自身で生き、私のシムボルは私である。



書斎での鳥居

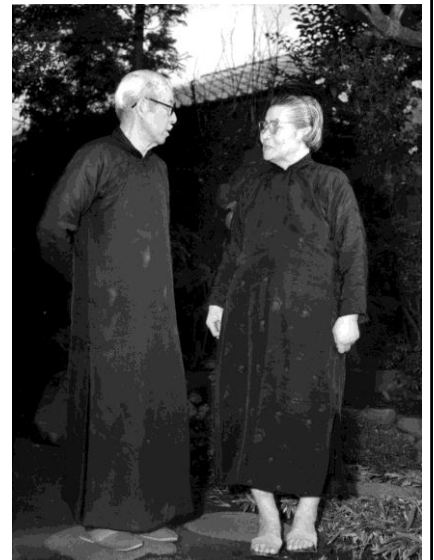
自叙伝『ある老学徒の手記』より

## 鳥居龍蔵の残したもの

### 鳥居の生涯や業績、残した資料

○現在でも価値のあるもの

○現代の私たちに多くのものを伝える  
→自ら行動し、考えることの大切さを語りかけている



中国から帰国後の龍蔵ときみ子